

# 平成26年度 学校自己評価システムシート ( 県立飯能高等学校 定時制 )

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自律性、社会性の伸長
	2 基礎・基本の定着と進路指導の充実
	3 保護者や中学校との連携強化と学校情報の積極的な提供

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員) 全定	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 2月1日 現在 )				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・学校は生徒にとって安心できる居場所として期待され、教育相談の場としても機能している。これをベースにして4年間の教育活動の中で自主性、自律性、社会性を育み伸ばすことに取り組んでいるが、多くの生徒は受け身である。昨年度の成果を更に一歩前進させるため、学校行事に一層主体的に取り組ませるための指導が必要である。	生徒が学校行事に主体的にかかわっていく指導をとおして自立できる力を育む取組。	①毎学期設定している生徒理解のための個別面談をとおして学校行事に主体的にかかわることが出来ているか振り返らせる。 ②体育祭や学芸祭等の学校行事に生徒自ら主体的にかかわれるよう企画段階から支援・指導し、生徒の満足感・達成感を更に高める。 ③学校行事をとおして生徒間の親交を一層深め、他への配慮ができるようにする。 ④外部機関、外部講師と連携して在り方生き方教育を行う。	①個別面談の実施によって学校行事に主体的にかかわるきっかけとなったか。 ②体育祭や学芸祭に生徒会役員をはじめ一人ひとりが主体的にかかわることができたか。また、満足感・達成感は昨年以上に高まったか。 ③生徒間のコミュニケーションが適切に図れ、他への配慮や気遣いがみられたか。 ④外部機関との連携が図られたか。また、学校行事に主体的にかかわるきっかけとなったか。	自立力を育む取組が進んだ。 ①年間6回の面談が自らを振り返り、主体的に取り組む好機となった。 ②体育祭の参加率92%、学芸祭参加率88%。共に昨年比3%以上の増。体育委員をはじめ準備から片付けまで主体的に取り組んだ。 ③行事が生徒間の関係を深める好機となり、声かけなど配慮や気遣いがみられた。 ④6月の進路ガイダンス、11月の2名の外部講師講演会により自分自身と向き合う機会となり主体的にかかわるきっかけとなった。	A	・生徒の自立心を育むためには家庭との連携が不可欠である。引き続き家庭に働きかけ信頼関係を一層強固にしていく。 ・体育祭、学芸祭は達成感や満足度が高い。その他の行事についてもより満足度の高いものにする力を生徒は秘めている。生徒会役員を中心に生徒が自ら考えて行事をつくって行けるよう支援・指導していく。 ・引き続き外部機関、外部講師を有効活用して教育効果を高める。
2	・多様な学習歴を持ち、ほとんどの生徒が小中学校の段階で学習につまずいた経験をもつ。学習意欲に課題がある裏には学習面における成功体験の少なさも要因の一つと考えられる。分かる・できる体験を積み重ねることに一層意を注ぐ必要がある。	生徒一人ひとりに対して、分かる・できる学習指導を充実させ基礎基本を定着させる取組。	①学習サポーターを活用して分かる・できるを体験させ、学習意欲の向上を図る。 ②就職支援アドバイザーを活用して生徒の自立を図る。 ③教員間の授業公開をとおして授業改善の方策を検討し合い、授業が分かる・できるという体験を積み重ねさせる。	①課題をもつ生徒への支援により、学習意欲の向上がみられたか。生徒自身ができるようになった実感を持てたか。 ②生徒が自己と向き合い、意識改革が図られたか。また、自己実現できたか。 ③授業公開をとおして分かる・できる授業への取組がなされたか。	基礎基本を定着させる取組が深まり広がった。 ①学習サポーターの丁寧な支援は大きな力となったが学習意欲の向上には課題を残した。 ②就職支援アドバイザー計画的・継続的な働きかけによって進路意識が芽生え、自己実現に向けて成果がでた。 ③11月に授業公開週間を設定。多様な学習歴をもつ生徒の入学もきっかけとなり分かる・できる授業の取組が日常化した。	B	・学習サポーターの意欲と努力を生かすため、活用方法を工夫する。 ・進路指導において引き続き就職支援アドバイザーを活用して進路意識を芽生えさせるところから進路実現に至るまで諦めない力を育成するとともに幅広く進路開拓する。 ・よりよい授業づくりについて引き続き情報交換を密にする。
3	・保護者の支援が力強くなりつつあるが、4年間で生徒が大きく成長する定時制の特性を保護者、中学校、地域に十分浸透させるまでには至っていない。保護者には学校行事への参加を促し、保護者との連携で教育改善を図る。あわせて中学校との連携を一層深める。	保護者との連携、中学校との連携を深め、働きながら学ぶ定時制教育を一層充実させる取組。	①PTA下校指導をはじめ学校と家庭で手を携えて指導にあたる。 ②中学校訪問を実施し、生徒の指導に活用するとともに定時制を正しく理解してもらう機会とする。 ③多様な生徒を自立させて社会に送り出す定時制の取組を中学校に丁寧に説明する。	①保護者の定時制への理解が深まり、協力が得られたか。子どもの成長を保護者が実感できているか。 ②中学校訪問を生徒理解に活用できたか。中学校への定時制PRの機会とできたか。 ③定時制の特性を正しく理解してもらう学校説明会が実施できたか。	保護者・中学校との連携が一層深まった。 ①5月及び9月にPTA下校指導を実施し、延べ25名の保護者の協力を得た。 ②市内の中学校との連携が深まった。 ③学校紹介ビデオのリニューアル及び全職員による対応で定時制の特性を理解してもらう学校説明会が実施できた。	A	・PTA下校指導は保護者同士の連携を深める機会としても機能している。引き続き地道な協力の輪を広げていく。 ・市内の中学校との連携は生徒理解のうえでも大変重要である。引き続き平時から情報交換できる関係を構築する働きかけを継続していく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成27年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シートに表れていない部分で生徒生活体験発表会や成人を祝う会等の様子もうかがった。親身になって生徒に関わってくれている様子が分かった。</li> <li>・生徒の力を引き出し、生徒にとってよりよい成果が得られるよう、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全定共用教室の使用について概ね良好に使用できていると聞いている。学習に対してより意欲的になってきていると受け止めている。</li> <li>・全日制は飯能商工会との連携により就職模擬面接会を実施している。定時制に対しても可能な方法をさぐり応援していきたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校との連携が徐々に双方向になっている様子がうかがえた。引き続き連携を強化して生徒を育ててほしい。</li> </ul>	